地域循環共生型エネルギー企業への進化

DXビジョン 2030

ワット（エネルギー）とビット（情報）をつなぎ、
石見の地域価値を共創・循環させる。





神楽電力株式会社 ／ DXビジョン2030

脱炭素 × データ × 地域経済循環

01 / 背景と使命

石見地域が直面する課題と、私たち神楽電力の使命

人口減少・高齢化、エネルギーの域外依存、地域内経済循環の不足。
3つの課題の解決に、データとデジタル技術を活用する企業へと進化します。

課題 01

人口減少・高齢化

地域経済の縮小と、地域を支える担い手不足が進行しています。

課題 02

エネルギーの域外依存

地域で消費されるエネルギーの多くを域外に依存し、電力代金が地域外へ流出しています。

課題 03

地域内経済循環の不足

地域で生まれた利益や価値が十分に地域内で循環していません。

MISSION

「地域循環共生型エネルギー企業」への進化

再生可能エネルギーとデータを活用し、
エネルギーの地産地消、安定供給、
地域経済循環を実現します。

電力を販売するだけでなく、
地域のエネルギー資源と情報をつなぎ、
地域課題の解決につながる
新たな価値を創出します。

再生可能エネルギー × データ × 地域連携 ⇒ 地域脱炭素・安定供給・地域経済循環

02 / 目指すビジネスモデル

ワット・ビット連携による地域エネルギーの高度化

地域の再エネと、気象・発電・需要・市場などのデータを結びつけ、需給運用と顧客サービスを変革します。

ワット — 地域のエネルギー資源

- 地域の再生可能エネルギー
- 風力・太陽光発電
- 蓄電池
- 需要家の電力使用

FUSION

デジタルで需給を可視化・最適化

ワットとビットをリアルタイムで連携

ビット — データ・情報

- 気象予測
- 発電実績
- 電力使用量
- 市場価格・需給・顧客データ

＋ 融合によって実現する 4 つの価値

VALUE 01

需給運用の高度化

気象予測や発電実績、市場価格データを活用し、発電量予測の精度向上とインバランス削減を図ります。

VALUE 02

蓄電池の最適運用

再生可能エネルギーの余剰吸収、ピーク対応、電力調達最適化に蓄電池を活用します。

VALUE 03

地域電源のアグリゲーション

地域の再エネ・蓄電池・需要家を束ね、地域内で有効活用できる仕組みを構築します。

VALUE 04

顧客・地域サービスの高度化

使用量の見える化、デマンドレスポンス、地域ポイント等を軸に需要家参加型サービスを目指します。

03 / DX戦略 ① 新規エネルギー事業

データを活用した
次世代エネルギー事業の構築

外部パートナーとの連携により、5つのSTEPを段階的に進めます。
小さな実証から積み上げ、知見を地域に広げます。

1 → 2 → 3 → 4 → 5

STEP 01
発電量予測の高度化
- 気象予測と発電実績を活用
- 発電計画と実績の差を分析
- インバランス削減につなげる

STEP 02
**時間前市場を
活用した需給調整**
- 最新の発電予測を活用
- 発電計画との差を早期把握
- 時間前市場を活用した調整方法を検討

STEP 03
蓄電池の最適運用
- 再エネ余剰の吸収
- 需要ピークへの対応
- 市場価格や需給を踏まえた充放電

STEP 04
需給管理の段階的な内製化
- 外部委託依存を抑制
- 社内へ知見・ノウハウを蓄積
- 制度変更・市場変化への対応力

STEP 05
地域アグリゲーション
- 地域の再エネ・蓄電池・需要家を連携する仕組みを検討
- エネルギーの地産地消拡大を目指す
- 地域の調整力・レジリエンス向上を目指す

PHILOSOPHY

すべてを一度に始めるのではなく、小さく実証し、検証しながら段階的に拡張します。失敗から得た知見も社内で共有し、次のSTEPに活かします。

DXを継続的に推進する組織づくり

経営者主導 × 部門横断 × 人材育成 × 挑戦する文化。
この 4 つの柱で、DX を一過性ではなく「続けられる仕組み」にします。

1 LEADERSHIP

経営者主導のDX推進

代表取締役がDX戦略の実務執行総括責任者として、経営会議で投資・進捗・成果・リスクを定期的に確認します。

2 CROSS-FUNCTIONAL

部門横断的な推進体制

専任部署に閉じず、DX推進責任者が顧客対応・請求・需給・発電・営業などの業務に横断的に関わり、現場と一体で進めます。

3 TALENT

デジタル人材の育成

外部研修、行政・協議会の勉強会、システム事業者との連携等を活用し、データ活用・情報セキュリティ・システム連携を学びます。

4 CULTURE

挑戦する企業文化

小規模な実証を行い成果を確認しながら段階的に拡大。成功だけでなく、課題や失敗から得た知見も社内で共有します。

安全で柔軟な
デジタル基盤の整備

電力運用に必要なデータを「つなぐ」「集める」「守る」。
4 つの整備方針で、制度変更や新サービスにも追随できる体制をつくります。

1 DATA PLATFORM

データ連携基盤

JP-LINK 等のデータ連携基盤を活用し、
顧客・請求・電力使用量・発電・需給・市場などの
データを安全かつ柔軟に連携します。

2 POWER OPERATIONS

電力運用基盤

発電量予測・発電実績・市場価格・
インバランス・蓄電池運用などを
一体的に把握できる環境を段階的に整備します。

3 EXTENSIBILITY

拡張性と保守性

将来の制度変更や新たなサービスに
対応できるよう、API や標準的なデータ形式を活用し、
特定システム・事業者への過度な依存を避けます。

- API・標準データ形式の採用
- ベンダーロックインの回避

SECURITY — 04

サイバーセキュリティ

IPA『SECURITY ACTION』二つ星の自己宣言を踏まえ、
以下を継続的に見直します。

- 情報セキュリティ基本方針
- アクセス管理・バックアップ
- 社員教育
- 事故発生時の対応体制

06 / KPI と戦略の見直し

DX戦略の成果を測る KPI

6 つの領域で、定量 KPI と期待効果をセットで運用します。
地域の実情に合わせ、優先順位や目標値は継続的に見直します。

指標領域	主な KPI	期待効果
需給運用の高度化	• 発電量予測精度 • インバランス率 • インバランス削減額	**発電計画と実績の差を縮小し、電力運用コストを削減する。**
蓄電池の活用	• 蓄電池稼働率 • 充放電による収益・削減効果	**再生可能エネルギーの有効活用と需給調整力を向上する。**
需給管理の内製化	• 内製化率 • 外部委託費削減額 • 社内で対応可能な業務数	**社内へのノウハウ蓄積と市場変化への対応力を高める。**
地域電源の活用	• 連携する再エネ・蓄電池の容量 • デマンドレスポンス参加数 • 地域内利用率	**エネルギーの地産地消と地域のレジリエンスを高める。**
顧客接点・業務効率化	• お客様マイページ利用率 • デジタル化した業務の割合 • 業務時間削減率	**顧客利便性と社内生産性を向上する。**
デジタル人材・ セキュリティ	• 研修受講率 • セキュリティ教育実施回数 • 重大な情報セキュリティ事故件数	**安全かつ継続的に DX を推進できる組織能力を高める。**

戦略の見直しサイクル

月次 / 四半期	経営会議	見直し	発信	反映
進捗を確認	**投資効果・課題・リスクを評価**	**KPI・優先順位・体制・予算**	**HP等で進捗を公開**	**ステークホルダー意見の反映**

目標設定の考え方

各KPIについて、実証結果や事業の進捗を踏まえて年度ごとの目標値を設定し、経営会議で定期的に見直します。デジタル研修及びセキュリティ教育を継続的に実施し、重大な情報セキュリティ事故0件を維持します。

代表取締役メッセージ

DX戦略の実現に向けて

次なる地域の未来を、デジタルの力でつくる。

神楽電力は、**地域にある再生可能エネルギーを地域で活かし、その価値を地域に還元すること**を使命としています。

電力市場や社会環境が大きく変化する中、
従来の電力販売だけでは、地域のエネルギー課題を
十分に解決することはできません。

私たちは、発電・需要・気象・市場等のデータを活用し、
発電量予測、需給管理、蓄電池運用、地域電源の連携を高度化します。

また、社員一人ひとりがデジタル技術を理解し、
地域の皆さまや関係事業者とともに
新しい価値を生み出せる組織を目指します。

経営者自らがDX戦略の実行を監督し、
成果と課題を継続的に確認しながら、
地域循環共生型エネルギー企業への進化を
着実に進めてまいります。

— 私たちが約束する 4 つのこと —

エネルギーの地産地消

地域で生み出した再エネを地域で使い、価値を地域に還します。

データで需給を最適化

発電・需要・気象・市場データで運用を高精度化します。

人材育成と安全な基盤

社員教育と継続的なセキュリティ見直しで土台を強化。

地域経済循環と脱炭素への貢献

エネルギーの地産地消で地域と地球の未来を支えます。

神楽電力株式会社

代表取締役　矢口 伸二

DX STRATEGY OWNER

© KAGURA POWER ／ DX VISION 2030
※本DXビジョンは、神楽電力株式会社の経営会議における承認を経て策定・公表しています。